

令和7年度 事業報告書 岡崎いきいき市民活動センター



【指定管理者：特定非営利活動法人 音の風】



1. 管理運営の状況 1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 11 名（常勤 1 名、非常勤 10 名）

【人材育成の取組】

- ・ OJT 研修
- ・ 自己研修

(2) 貸館等

ア 利用件数 (表 1)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比
R6	141	134	150	139	135	161	165	148	130	134	126	160	1,723	101.12%
R7	147	147	142	136	140	144	164	152	141	134	125	125	1,697	99.59%

(年間) 1,697 件 (前年度比 99.59%)

(表 2) 月別時間

R7年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
午前	132	127	112	114	128	122	122	133	113	113	115	113	1,444
午後	180	182	174	163	142	165	189	184	168	160	175	188	2,070
夜間	53	48	45	34	39	48	70	47	50	39	27	23	523
R7年計	365	357	331	311	309	335	381	364	331	312	317	324	4,037
R6年計	330	315	358	336	313	389	379	364	315	322	299	394	4,114
R5年計	316	320	319	313	330	387	342	292	293	276	318	371	3,877
前年度比	110.61%	113.33%	92.46%	92.56%	98.72%	86.12%	100.53%	100.00%	105.08%	96.89%	106.02%	82.23%	98.13%
一昨年度比	115.51%	111.56%	103.76%	99.36%	93.64%	86.56%	111.40%	124.66%	112.97%	113.04%	99.69%	87.33%	104.13%

イ 利用状況

① 年間の利用状況について

件数でみると前年から微減し 99.59% (表 1)、時間は 98.13%と減っている。

R7 年に新規登録件数は 61 件あったが、利用時間にはプラスとして反映されていない。

表 1



② 改善

○課題 ・ 会議室に比べ和室の利用が少ない。夜間の利用が少ない。



ウ 利用促進に向けた取組【センターで取り組んだこと】

和室利用に向けた体操やヨガのサークルへ積極的に働きかけた。大学生のサークルの新入生歓迎イベントなど、椅子・机を必須としない団体にも利用を勧めた。

また比較的空いているので、いつも利用していた会議室が使えず、和室を使った子ども書道のサークルは、小さな子どもは低い長机のほうが集中できたと喜んでおられた。

夜間の利用に関しては、大学生サークルの定期的な利用が減ったので、幅広く声をかけている。

(3) 情報発信等

ア 取組実績【SNS 等広報媒体により、情報発信に積極的に取り組んだ事例】

- ・HP、Facebook、X（旧ツイッター）と3つのSNSを情報発信の特性に応じて分けている。
- ・HPはこれから行う事業の告知と、終了した事業を報告している。いくつかの提案事業では専用ページを作り、内容の告知や出演するサークルの紹介などを行った。
また新規利用者の登録がスムーズに進むように登録用紙や利用規約をダウンロードして記入できるようにしている。新規利用について電話で問い合わせがあった際は、来館しなくても登録できるように利便性を高めている。
- ・Facebookでは事業の報告、Xは日々のニュースや、他のセンターや近隣施設のポスト、そして助成金情報などのリポストなどを日々気軽におこなっている
- ・地域自治推進室を通じた区民新聞への広報もこまめに広報依頼をしているほか、京都新聞のお知らせ欄「まちかど」にも依頼している。
- ・地元町内会対象に「岡崎いきセン便り」を季節ごとに作成し回覧している。

イ 取組の効果

- ・レコードを聴く会、ワールドミュージックを聴く会などでは事業終了後にすぐFacebookで報告をあげるとともに、次回の事業の予告を行っている。企画者の終了後の満足度の向上と共に次回への集客につながっている。
- ・区民新聞や、京都新聞のお知らせ欄「まちかど」に掲載することで、事業への新たな参加者が一定数おられる。また新規のサークルにも「まちかど」のことをお伝えし参加者が増えたと喜んでおられた。
- ・地元町内の回覧や、センターの掲示板で事業を周知したことで、事業の参加や会議室利用につながった。

(4) 管理運営

京都市との協定書及び仕様書に基づき、適切に管理運営を行っている。

防火管理者の講習は2人のスタッフが受けている。

業者による、建築設備、消防設備の保守点検を受けた。年に2回のワックスがけ等の清掃もしている。普段の清掃、保守管理、草花の植栽はスタッフにより実施している。

(5) その他

【施設運営の質を高めるための取組】

- ・京都市の定期アンケートのほか独自アンケート、事業ごとにアンケートを実施し利用者の意見を聞いている。詳細は後述「4 施設の利用満足度」。
- ・各建物にご意見ボックスを設置し、窓口でも利用者への積極的な声掛けで良好なコミュニケーションをとっている

【将来に向かって地域と共に進化するための取組】

- ・地元密着型公共施設として地域とのパートナーシップを強化し、小回りを利かせた活動で地域団体との協働をすすめている。地元施設からの依頼で、学校や当センター利用者を地元施設イベントの出演につなげている。
- ・今年初めて **Kokoka** 京都市国際交流会館の春のマルシェのステージ出演者の募集に協力した。予定以上の出演者を集めイベント運営に寄与し国際交流会館との連携が深まった。
- ・左京区役所ふれあいまつり等の地域イベントに当センターのサークルを紹介し盛りあげた。

2. 市民活動支援・活性化事業

【事業名】 市民活動自立自走事業 相談・育成事業

1 事業の概要

	業務内容	日時	場所	人数	協力団体等
①	ロームスクエアライブ 『岡崎パークステージ』 出演グループコーディネート	10/4, 10/5	ロームシアター京都パーク プラザ西側	出演 328 名 観客多数	ロームシアター京都
②	ドラムサークルグループ A) スキルアップ講座 B) スキルアップ実践体験	A) 1/17, 1/25 B) 7/22, 7/24	A) センター B) 京都大学学 童保育	A) 各日 16 名 B) 募集 4, 5 名に 対して両日 5 名	
③	しみセン・いきセン合同 『みんなの文化祭』	3/15	ひとまち交流 館大会議室、 第 1, 2 会議 室他	16 団体のステー ジ（当センター 2 団体）、24 団体 出展（同 6 団 体）	しみセン、9 か 所のいきセン
④	センター利用団体の活動 サポート、地域へのコー ディネート ア) 左京区ふれあい祭 イ) kokoka 春のマルシェ ウ) 古典ヨガ、社会福祉協 議会	ア) 11/3 イ) 3/28, 3/29, 4/4, 4/5 ウ) 3 月	ア) 左京区役所 イ) 京都市国際 交流会館	ア) 出演者 7 名＋ 観客多数 イ) 出演団体 15 組 コーディネート	ア) 左京区役所 イ) 国際交流会 館 ウ) 左京区社会 福祉協議会
⑤	センター利用者メンバー 募集チラシ&HP	チラシ 6 月発 行	センター	チラシ 19 団体 HP 22 団体	
⑥	サークル活動アドバイ ス、チラシ作りお手伝い	常時	センター	ヨガ、書道、ギ ターサークル	
予算：1,222,000 円 決算：1,221,488 円					

2 事業内容

- ① ロームスクエアライブ『岡崎パークステージ』に地域団体や当センター利用者の出演をコーディネート
10/4：あおい苑（障がい者施設）、子どもコーラス Comodo、岡崎リトルポップスターズ、キャナリアンヴォイセズ、シャイニングスターズ、Kyopella、錦林児童館、文教中学高等学校ダンス部
10/5：ドラムサークルグループ、翠響、歌って健康コーラス、DuoElle、バルヴィノク、岡崎中学校吹奏楽部
- ② ドラムサークルグループサポート
ドラムサークル養成講座受講生向けにフォローアップ講習を行った。また実践経験を積むために学童保育でのドラムサークル活動のコーディネートを行った。
- ③ みんなの文化祭
しみセンと 9 つのいきセンの利用グループが展示とステージ発表を行った。当センターからもステージ発表に 2 団体と展示に 6 団体をコーディネートした。他のセンターのスタッフの方と一緒に当日の運営を行った。
- ④ センター利用団体の活動サポート、地域へのコーディネート
左京区民ふれあい祭りに、センター利用団体子どもコーラス Comodo を出演、オープニングイ

ベントで会場を盛り上げた。国際交流会館の春のマルシェイベントのステージ出演者の募集に協力をした。センター利用団体の他、幅広く声をかけて予定出演枠 12 枠を超えて集めた。枠は結果 16 団体まで増やし内 15 団体を当センターでコーディネートした。

- ⑤ サークルメンバー募集のチラシ 19 団体掲載と HP に 22 団体を載せたメンバー募集頁を作成
- ⑥ ヨガサークル、書道サークル、ギターサークルの立ち上げのサポート。ヨガサークルは不定期に、書道サークルは定期活動につながった。

3 準備段階での工夫

- ① ロームスクエアライブでは、出演者の今後の自走活動への広がり期待し、センター利用者のみの出演に留まらず、地域の多様な主体との双方向の出会いの場となるよう事前に働きかけを行った。
- ② 講座終了後のドラムサークルグループに参加していないメンバーが参加しやすい講習内容とし、メール、ライングループ以外に葉書などで全員に呼び掛けた。
- ③ 当センタースタッフが、当日の役割のため出演グループのフォローなどが十分にできないことを想定し、出演者、出展者には事前に当日の動きや準備片付けなどの説明を綿密に行った。
- ④ 国際交流会館の担当者の方が新しくなり、ズーム会議などで打合せを行った。その際に募集に必要な詳細を十分にヒアリングし、出演者に効率よく募集条件を伝えた。
- ⑤ メンバー募集チラシに掲載できなかったサークルについては、HP でメンバー募集を行った。

4 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

当センターの利用者、グループの活動の活性化をはかる。市民活動グループの自立自走を目指す。またグループの活動活性化を促進することで、貸館利用の拡大も狙う。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・ ローム・スクエアという大きな会場で発表した地域出演団体は、それぞれ活動へのモチベーションが高まっていた。また、ご家族だけでなく地域の方々多数いる会場なので、団体の認知向上で地域との関係が深まり、今後の地域活動の幅も広がるのが想定される。
- ・ 発表の場を求めている、地域団体、サークル活動を活性化することができた。
- ・ メンバー募集チラシや HP で、新規加入者があり活動が活性化した。
- ・ 一般市民にセンターの取組みを周知することができた。

○アンケート結果より

① ロームスクエアライブより：地域イベントへの協力について

- (ア) 地域イベントに参加し様々な方たちとの交流ができる機会は有難いです。(あおい苑)
- (イ) 本当に貴重な機会です。地域の方々に無料で見ていただける、保護者にも見ていただけることはとても嬉しいです、観客の皆さんとの距離も近かったのもより楽しく踊れました。(文教中学高等学校)

5 今後の抱負

- ・ 普段の対応や会話から、サークル活動の立ち上げや活性化のサポートを続けていきたい。
- ・ 利用者のサークル活動を、児童施設や老人福祉施設、障がい者施設にボランティアに出かけるような市民活動へ進化させていきたい。
- ・ 新規サークルの立ち上げや利用団体の活動の活性化による貸館利用時間の増加を目指す。

市民活動自立自走事業「相談・育成事業」



ロームスクエアライブ 文教高校ダンス部



ロームスクエアライブ 国際交流会館より紹介
ウクライナのダンス パルヴィノク



ドラムサークルスキルアップ講習



みんなの文化祭 当センターよりオカリナサークル



みんなの文化祭 設営風景



左京区ふれあい祭り 子どもサークルコーディネート



Kokoka 春のマルシェ コーディネート



Kokoka 春のマルシェ

【事業名】 市民活動自立自走事業 イベント企画支援「青空おんがく会、おかっぱ」

1 事業の概要

- 1 開催日時:ホシノカケラ主催 R7 年 10 月 19 日(日)、ピアノサロン主催 R7 年 11 月 12 日(水)
おかっぱ R7 年 9 月 21 日 (日)
- 2 開催場所:センター 音の庭 (二条通に面した小庭)
- 3 参加人数:ホシノカケラ 企画者:ホシノカケラ 3 名、出演者: 8 組、観客、約 50 名
ピアノサロン 企画者:ピアノサロンより 3 名、出演者: 12 名またはグループ
おかっぱ 企画者:オカリナ奏者 1 名、
- 4 予算: 504,000 円 / 決算: 503,056 円

2 事業内容

【実施目的】 サークル活動から市民活動へ一歩踏み出すために、自ら市民交流イベントを開催する企画力の養成を行う。

【実施内容】

センター利用団体に、センター二条通に面した庭での音楽イベント企画を募集し、昨年と同じくコーラスグループ「ホシノカケラ」と新しくピアノサロンが応募。グループに合わせてイベントの企画立案から運営までのサポートを行った。また 1 人で楽器演奏をしたいという要望もあり対応した。

【役割】

- ・企画者: イベントの出演者の出演依頼、企画立案、チラシ作成、広報、準備、設営、司会進行、音響等、片付け。
- ・センター: 場所、市内各所へのチラシ配架依頼、SNS 等での広報。音響。写真・動画撮影、他運営補助全般。

3 準備段階での工夫

- ・ピアノサロンのおんがく会は企画者にとっては初めてのイベント企画で、シニアのチラシ作成へのアドバイス、メンバー間での役割分担など丁寧に説明した。
- ・一人で演奏したいという希望者があったので、音の庭で発表できるルールを作成した。

4 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果, 目標等

サークル活動から市民活動へ一歩踏み出すために、自らイベントを開催する企画力の養成

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・【ホシノカケラ主催】 イベントの運営には慣れ、第一段階の目標は達成された。また経験を積むため、京都市のサブウェイパフォーマーに R8 年より登録している。
- ・【ピアノサロン主催】 初めての企画でグループ内で役割を分担し発表することができた。

5 今後の抱負

両企画グループ自身が次年度への課題を見つけており、今後の課題の克服に向けて考えているので、センターとして見守る形で企画力の育成を図る。

また、おかっぱについては広く告知し、様々なグループの発表の場を提供したい。

ホシノカケラ主催 青空おんがく会 2025年10月19日(日)



午前中より、準備。リハーサルの様子



インド音楽ユニット K&I



はじめての発表、ジェリーズ



二条通からも見守る観客

ピアノサロン主催 青空おんがく会 2025年11月12日(水)



サロンメンバーによる司会と演奏



おかっぱ(岡崎アートパフォーマンス)
2025年9月21日(日)



メンバーによる集合写真



(右おかっぱ)8
近隣施設のイベントに合わせてのオカリナ演奏

【事業名】 市民活動自立自走事業 まちあるき&手作りマップ

1 事業の概要

- 1 開催日時：①アトライター講座 11/24（月）13：00～16：00
②まちあるきギャラリー巡りツアー 1回目 11/29（金）12：45～16：30、2回目 12/6（土）12：45～16：30
- 2 開催場所：①当センター会議室2と岡崎近辺のギャラリー、美術館
②当センター和室と岡崎近辺のギャラリー4か所
- 3 参加人数：①18人 ②11/29：9人 12/6：9人
- 4 協力団体等：アートギャラリー百継、ALC Library&Gallery、MtK Contemporary Art、京都市京セラ美術館、ギャラリー胡々湾、ギャラリー一点、計6か所
講師：①美術作家：多田幸浩氏、京セラ美術館副館長：小林中氏
②11/22 多田幸浩氏、11/30 小林中氏
- 5 予算：556,000円 決算：537,788円

2 事業内容

【実施目的】

- ・①ギャラリーやアート作品の魅力を発信するための文章をつくるコツを学ぶ。
- ・②岡崎のまち歩きを楽しみながら、地域の魅力の発見、市民目線での発信を目指す。

【実施内容】

- ・①ギャラリー巡りツアーの講師が講師を勤め、参加者にアート作品や展示情報を文章にし、発信するコツを学ぶ当講座を開催した。また展示会場でアート作品を鑑賞し、参加者同士が文章を発表するワークショップを行った。
- ・②11/29 は美術作家のヒロ氏と、12/6 は京都市京セラ美術館副館長の小林氏を講師に迎え、岡崎エリアを中心としたギャラリーと美術館をそれぞれ各3か所巡った。まち歩きを楽しむとともに、各ギャラリーをペア同士で分かれて取材。センターに戻り、各ペア同士で発表し記事にまとめた。その記事を元にアートのまちである岡崎の魅力を伝えるギャラリーマップを作成し、岡崎の美術館やギャラリーに配布した。

3 準備段階での工夫

- ・①今年度はギャラリー巡りツアーと関連付けるため、ギャラリー巡りツアーの講師のお2人が講師を担当した。
- ・②昨年度はギャラリー間の移動距離が長かったこともあり、距離が短くなるよう配慮した。

4 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・①と②を行い参加者が自主的にギャラリーやアート作品の魅力を発信に目を向けるようになることを期待する。

事業実施による目標の達成度

- ・①今後ギャラリー巡りをした時はSNSに情報発信したいと、数名の参加者が回答していた。

5 今後の抱負

- ・①アンケート結果が高評価だったこともあり、今後も続けていきたい。
- ・②次回は岡崎全域のマップを作成できるようにしたい。また参加者が情報発信できるような工夫をしたい。

市民活動自立自走事業) まちあるき手作りマップ①アートライター講座 ②まちあるきギャラリー巡りツアー

①アートライター講座 11/24



鑑賞した作品を文章化するコツの説明を聞く参加者



展示会場で作品を見ながらベアで文章を考える参加者

②ギャラリー巡りツアー11/29、12/06



ギャラリー巡り出発前にルールの説明を聞く参加者



京セラ美術館の展示を副館長の講師に話を聞く参加者



ギャラリーで講師の話を聞く参加者



ギャラリーオーナーに取材する参加者



作家に質問する参加者



センターで取材発表をする参加者

【事業名】 市民活動自立自走事業 パンから考える食品ロス問題

1 事業の概要

- 1 開催日時：2026年2月23日（月祝）13時から15時半
- 2 開催場所：会議室2
- 3 参加人数：24人（定員20人）
- 4 協力団体等：環境政策局資源循環推進課 田中真弓氏
パン夜市めぐる 田村泰雅氏 村田麻実氏
- 5 予算：154,000円 決算：152,969円

2 事業内容

【実施目的】

売れ残ったパンを安価で販売し食品ロスを減らす活動「パン夜市めぐる」の取組と京都市の食品ロス対策を掛け合わせ、市民一人ひとりが身近な問題として食品ロスを考える機会を提供する。パンをテーマにすることで親しみやすく、参加者が気軽に学び、交流できる場を目指す

【実施内容】

- ・京都市環境局より京都市のフードロス問題について、またその対策や取組の講話。
- ・「パン夜市めぐる」主催者より、活動を始めるきっかけや、パン屋のフードロス問題について講話。講師として田村氏と、共同主催者の村田氏2名が登壇。
- ・環境局の方とパン夜市講師の方々との対談。
- ・交流タイムでは、パンを食べくつろいだ雰囲気の中で、質疑応答や意見交換を参加者も交えて行った。

3 準備段階での工夫

当初の企画内容では、京都市担当者、パン夜市めぐる主催者の発表後、すぐに参加者の交流タイムを予定していたが、両氏の対談を通して参加者の理解がより深まることを期待し、企画を練り直した。

4 事業実施による効果・達成度

- 1) 京都市環境局より、ゴミ削減への市の取組説明を受け、各自が日々のゴミを減らす取組を学ぶとともに、食品ロスの削減につながるフードシェアリングアプリなど新しい市の政策を知ることができた。
- 2) パン夜市めぐるの2人が行っている、**食品ロスの削減**、個人経営のパン屋（**小規模事業者**）の**支援**、活動へ共感した販売場所での**地域のつながりづくり**などの市民活動の紹介をすることができた。
- 3) 賞味期限が短いパンの保存方法や、食べる前にリベイクするおいしい食べ方などを学ぶとともに、食品ロス削減の啓発につながった。
- 4) 活発に参加者から質問、意見交換が行われ食品ロスの取組を広げたい機運が高まった。

5 今後の抱負

今回参加者の方々の意見を話す場を設けなかったが、グループディスカッションなど参加者交流の時間を充実させていきたい。

パンから考える食品ロス問題

2026年2月23日(月・祝日)



2025/10/16打合せに行った日のパン夜市めぐる(北区鞍馬口烏丸) 店外と店内でのパン販売の様子



206/2/23 パンから考える食品ロス会場全景



京都市の食品ロスへの取組について



パン夜市めぐる主催の二人からの活動紹介



対談、質問タイム



活発な意見交流会



・12・希望者のみ記念写真

事業名】文化芸術交流連携事業 レコードを聴く会 2025

1 事業の概要

- 1 開催日時：①レコードを聴く会 4/26 5/24 6/28 7/26 8/23 9/19
9/27 10/25 11/22 12/20 R8年 1/24 2/28 3/28 (全日 14:00～15:45) ②レコードをカケル会 12/27 (14:00～15:30) ③企画者交流会 (春のレコ祭り) R8年 3/7 (14:00～15:30) ④お出かけレコードを聴く会 5/31 9/12 9/21 10/30 12/12 (5/31 10/30・13:45～15:00、9/12・14:00～14:45、9/21・11:00～12:45、12/12・14～15:30)
- 2 開催場所：①②③センター和室 ④東山老人福祉センター、ともいき京都、東山青少年活動センター創造活動室、東山総合庁舎北館 1F 展示ホール
- 3 参加人数：①4/26:21名 5/24:26名 6/28:30名 7/26:17名 8/23:27名 9/19:36名 9/27:35名 10/25:25名 11/22:19名 12/20:30名 R8年 1/24:25名 2/28:22名 3/28:27名 ②12/27:23名 ③R8年 3/7:25名 ④5/31:15名 9/12:10名 9/21:6名 10/30:15名 12/12:50名 (①②③④計 484名)
- 4 協力団体等：岡崎レコードを聴く会サークル、東山区役所、東山老人福祉センター、ともいき京都、東山青少年活動センター
- 5 予算：441,920 円 決算：440,096 円

2 事業内容

- ・①全 13 回「レコードを聴く会」の開催。
- ・②来場者が企画者となり企画発表する「レコードをカケル会」の開催。
- ・③の企画者交流会の「春のレコ祭り」の開催。
- ・④当センター以外の場所でレコードを聴く会を開催する「お出かけレコードを聴く会」の開催。
- ・新規企画者の育成、市民企画者の自立・自走支援

3 準備段階での工夫

- ・企画者のスキルに応じて、自立に向けたサポートをした。
- ・②で会のマンネリ化の打開策として新しい企画者を探した。
- ・③を企画者同士で運営できるようにリーダー的な企画者をまとめ役として事前にレクチャーした。
- ・新規来場者が増えるように「お出かけレコードを聴く会」で当会の広報に力を入れた。

4 事業実施による効果・達成度

- (2) 当初の事業効果、目標等
 - ・企画者の自立自走へ向けてのサポート。新企画者の発掘。
- (3) 事業実施による目標の達成度
 - ・それぞれの企画者のスキルを見極めた上で、スキルの高い企画者が不慣れな企画者のサポート側に回るように調整したり、企画者同士の交流を作りながら、自立に向けてさらに一歩前進できた。
 - ・②の来場者が新しい企画者の仲間入りとなった。
 - ・「お出かけレコードを聴く会」で会の取り組みを周知する事ができ、当センターでの会にも足を運んでくれるようになった。
 - ・会の取り組みに共感を持った漫画家が会を題材とした漫画を連載した。その事により会を広く周知するきっかけができた。
 - ・PC が苦手でチラシが作れなかった企画者が PC を使わず手づくりで作る手法をこの数年アドバイスした甲斐あり、ここ数年で見る人にも評判のいいチラシを作れるようになった。

5 今後の抱負

- ・会を自身で進行できる企画者には会を任せるように努めていきたい。
- ・リーダー的な企画者をまとめ役とし、来場者と企画者同士で一丸となり作り上げる会を築いていきたい。
- ・当センターだけではなく他の場所でも会を運営できるということをお出かけレコードを聴く会で伝え、市民活動の場へと繋げていきたい。
- ・手助けが必要になってきた年配の企画者のフォローができる企画者を育成し、企画者同士が支え合える会を目指していきたい

文化芸術交流連携事業 レコードを聴く会2025



05/24(土)Peter.Paul and Mary.平和を愛したMusicを聴こう
会に参加した参加者が自発的に会場の片付けのサポートをした。参加者も当会を作り上げていこうという雰囲気が出てきた。



06/28(土) 洋版『紅白歌合戦』蓄音機コンサート
自主的なレコードを聴く会も開催している企画者のため知名度も出てきたこともあり、盛況な会となった。



09/12(土)お出かけレコードを聴く会①

場所:ともいき京都

初めて行く施設だったこともあり、手慣れた企画者に会の出演を任せた。その甲斐あり、施設の利用者には大変喜ばれた。



10/30(金) お出かけレコードを聴く会②

場所:東山老人福祉センター

東山老人福祉センターの映像機材を利用し、映像にも力を入れた会を作り上げることができた。



12/12(土) お出かけレコードを聴く会③

場所:東山総合庁舎北館1F展示ホール

参加人数が多い会となった。また初めてレコードを聴く会を知る人が多く、会の周知に繋げることができた。



12/27(土)レコードをカケル会

普段は来場者として会に来ている人達に声をかけ、レコードをカケル企画者としてレコード発表を行った。サポートは会のサークルメンバーが行った。



03/07(土)春のレコ祭り

リーダー的な企画者をまとめ役とし、来場者と企画者同士で一丸となり作り上げる会を築き上げた。



漫画に連載

会の取り組みに共感を持った漫画家が会を題材とした漫画を連載した。その事により会を広く周知するきっかけができた。

昨年度は、角川書店から発刊のコミックビームに掲載されていた「レコード大好き少年カケル」(2023/6～2026/1)に、当センターのレコードを聴く会やスタッフが大きく取り上げられた。単行本4巻のあとがきには、以下のように書かれている。

「レコードを聴く会」の舞台となった”うきうき市民活動センター”のモデルは、京都市岡崎いきいき市民活動センターです。こちらでは実際にレコードを聴く会が定期的に行われており、作中に登場するレコードもそこで紹介されたものを元にしてあります。どなたでも参加できますので、興味のある方はぜひ検索してみてください。



本館の前でスタッフナイトウさんと主人公カケルくん



実際の本館外観。レコードを聴く会のポスターも



名称「レコードを聴く会」も同じ



レコードを聴く会オリジナルチラシ



うきうき市民活動センター和室



実際の和室でのレコードを聴く会

【事業名】多世代交流事業 岡崎ワールドミュージック

1 事業の概要

- 1 開催日時：①ワールドミュージックを聴く会・ワークショップ：5/17、6/14、7/19、9/13、9/15、10/13、11/15、11/24、12/13、2/14 ②新春・ワールドミュージックを聴く会・三味線三昧編：1/10（①②14：00～15：30（9/15、10/13、11/24 は 10 時半～12 時半と 13 時半～15 時半））③実行委員会打合せ：5/17、10/13、12/13、1/10、2/14 の会の終了後、または SNS でのメッセージなど
- 2 開催場所：①②岡崎いきいき市民活動センター和室 ③岡崎いきいき市民活動センター和室・会議室 1
- 3 参加人数：①5/17：13 名、6/14：18 名、7/19：35 名、9/13：21 名、9/15：10 名、10/13：17 名、11/15：12 名、11/24：6 名、12/13：14 名、2/14：27 名
②1/10：26 名 ③5/17：5 名、10/13：5 名、12/13：5 名、2/14：4 名
（①②計 199 名）
- 4 協力団体等：京都市国際交流会館
- 5 予算：201,000 円 決算：200,695 円

2 事業内容

①ワールドミュージックを聴く会・ワークショップ：

- ・ワールドミュージックにまつわるミニコンサートやトークイベントを約 2 か月に 1 回程度で開催。またペットボトルを用いた手作り三味線ワークショップや民族楽器演奏体験など参加者がより楽器と身近になるワークショップも開催。

②新春・ワールドミュージックを聴く会・三味線三昧編：

- ・実行委員が広報から企画運営まで手がける自主的なワールドミュージックを聴く会を開催。

3 準備段階での工夫

- ・「レコードを聴く会」の来場者にチラシ配布したり、口頭で宣伝することにより、「レコードを聴く会」のリピーターがワールドミュージックを聴く会に足を運ぶようになった。
- ・広報としてうまくいっている「レコードを聴く会」に習って、会の年間のスケジュールを来場者に知ってもらえるように、年間スケジュールチラシを毎回会で配布するようにしている。

4 事業実施による効果・達成度

（4）当初の事業効果、目標等

- ・京都市国際交流会館の留学生や大学生との連携する会を作り、地域関係機関とのネットワーク構築を進める。
- ・少人数の実行委員の自立自走化に向けての側面的サポートを行った。
- ・多世代が集まり自然に交流する機会を作り、相互理解を深める。

事業実施による目標の達成度

- ・京都市国際交流会館の留学生や大学生との連携する会を作り、地域関係機関とのネットワーク構築を進めることができた。
- ・当センターの高齢の利用者や、子どもと子育て世代の親など、幅広い世代の交流ができた。
- ・実行委員が広報から企画運営まで自主的に会を開催し、自立自走化に向けて一歩進むことができた。

5 今後の抱負

- ・少数の実行委員が運営する会のため、メンバーの手が足りない日は来場者を巻き込んでサポートするメンバーを増やしていきたい。
- ・実行委員の自主的な会が増えるように側面的サポートをしていきたい。

多世代交流事業 岡崎ワールドミュージック



京都市国際交流会館との連携で海外留学生の講演を行った(5/17)



珍しいタイのお琴の音色を聴く来場者(6/14)



南シベリアの音楽鑑賞後、質疑応答の交流の中、会が進んだ(9/13)



子供と子育て世代が集まった楽器作りWS(10/13)



実行委員会ミーティングで今後の企画を話し合った(10/13)



会の終了後、出演者と来場者と実行委員で音楽談義(12/13)



実行委員主催の自立した会は大盛況となった(1/10)



レコードを聴く会と当会がコラボしてイベントを企画した(2/14)

【事業名】地域連携事業 岡崎わいわい文化祭

1 事業の概要

- 1 開催日時：①文化祭：R8年2月7日(土)13時～16時半
②会場スタッフ会議：R8年1月8日(木) ③出演者会議：R8年1月19日(月)
④実行委員スタッフ会議：R8年1月28日(水)
- 2 開催場所：①京都市国際交流会館メインホール、ホワイエ ②京都市国際交流会館
③岡崎いきいき市民活動センター会議室1 ④岡崎集会所
- 3 参加人数：①わいわい文化祭入場者数：約400名（出演者：岡崎中学吹奏楽部、京都文教中高ダンス部、錦林児童館、岡崎女性会、紫苑平安コーラス、太極拳「朝練清清」、あおい苑など13団体約250名）
②会場スタッフ会議：実行委員長、会場スタッフ2名
③出演者会議：各出演団体代表12名
④実行委員スタッフ会議：地域の方々14名
- 4 協力団体等：岡崎中学校、京都文教中高、錦林児童館、あおい苑、京都市国際交流会館等
- 5 予算：405,000円 / 決算：404,410円

2 事業内容

- ・岡崎地域の福祉施設、教育機関等が連携し、歌や踊りの発表を行った。
- ・地域の魅力を伝える写真と絵画展、地域の小学生と中学生の書道、また岡崎地域に滞在制作する若手作家の現代アートの発表、地域の特産品の販売等催し物をホワイエで同時開催した。
- ・上鳥羽北部いきいき市民活動センターとの連携のもと同センター主催のロケットストーブの実演展示の側面的サポートを行った。

3 準備段階での工夫

- ・実行委員長のPCスキルの向上に向けて、苦手とされる書類作成のサポートをし、アナログ作業をなるべく減らしていく事で、準備がスムーズにいくようになった。
- ・作品展の作品ジャンルに広がりが出るように地域で活動する若手現代美術作家に声掛けをした。

4 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ・地域実行委員の文化祭自主運営を目指す。
- ・実行委員が文化祭を自主運営していくための資金調達。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・地域住民が一丸となって企画から当日の運営までを行い、地域住民同士の繋がりの中、築き上げた文化祭を開催できた。
- ・実行委員のPCスキルの向上に力を入れることで、広報物の作成やスケジュール調整がスムーズできるようになった。
- ・実行委員の積極的な寄付金の呼びかけを行った結果、昨年度より運営資金を調達する事ができた。
- ・文化祭のアンケートから昨年同様、毎年楽しみにしているという回答が多数あった。10年以上継続して毎年開催したことで、地域に根付いた文化祭になっていることがわかる。

5 今後の抱負

- ・文化祭が継続できるよう引き続き運営資金調達に向けて寄付金を促す呼びかけをし、自主運営を目指した実行委員の育成のサポートをしていきたい。

地域連携事業 岡崎わいわい文化祭



出演者会議では出演団体と当日の動きを確認し合う



文化祭開催前のミーティングにてスタッフの持ち場を確認する



スタッフ同士協力し合い会場の設営を行った



地域の福祉施設利用者による演奏の発表



ハワイエでは地域の方々の作品展示が行われた



ロケットストーブの実演を行い、地域住民に災害時の活用法を伝えた



地域の方々のステージの発表を客席の来場者も一緒になって楽しんだ



客席は満席の中、ラストを飾る地域の中学校吹奏楽部の演奏

3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和 7 年度実績：2,539,540 円 令和 6 年度 2,578,840 円

〔 内訳 会議室等：2,333,800 円（前年度 2,349,000 円）
 附属設備：205,740 円（前年度 229,840 円 ※自主事業分を除く） 〕

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

（1）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和 7 年 11 月実施 【調査項目】窓口サービス

（2）センター独自アンケート

ア) センター独自にアンケートを実施(令和 7 年 11 月実施)

イ) ご意見箱を会議室 1 と分室ロビーに設置 (R5 年 11 月より)

ウ) 事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

（1）全センター共通窓口サービス

	案内表示は分かりやすかったですか	あいさつやお声がけはきちんとできていましたか	身だしなみは業務にふさわしいものでしたか	表情や態度は感じが良かったですか	言葉づかいや説明は、親切でいてねいでしたか	説明は的確で分かりやすかったですか	整理、整頓は行き届いていましたか
満足	43.1%	67.9%	64.2%	67.9%	71.6%	65.1%	59.6%
普通	54.1%	31.2%	35.8%	32.1%	28.4%	33.9%	39.4%
不満	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
無回答	0.9%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

案内表示以外は「満足」が多い。今後も利用者対応について丁寧に行っていききたい。

（2）センター独自アンケート 【令和 7 年 11 月実施】

ア) センター独自アンケート(108 枚) 利用者の地域や年代について

①利用者の地域について

左京区 38 (学区：錦林 22 岡崎 7 松ヶ崎 1 四錦 3 北白川 1 養徳 1 下鴨 1 葵 1 吉田 1)

北区 2 上京区 5 中京区 11 東山区 4 山科区 11 下京区 7

南区 3 右京区 4 西京区 3 伏見区 5

京都府下 4 (宇治 2 城陽 1 向日市 1) 他府県 11 (兵庫 3 大阪 3 滋賀 4 未 1)

左京区の利用者が全体の 35% が多い。市内全域だけでなく他府県からの利用も 10% あった。

②利用者の年代

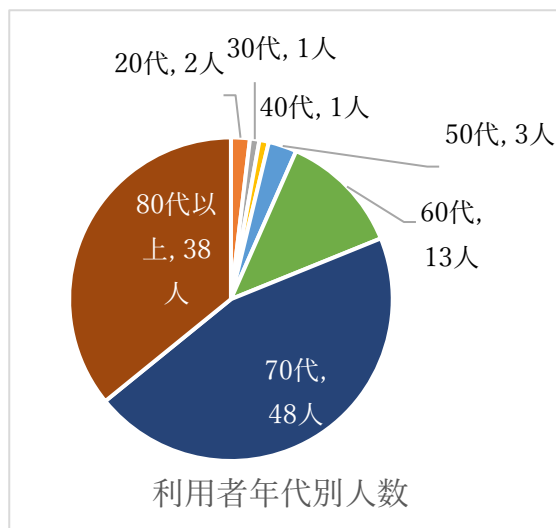
10 代以下	20 代	30 代	40 代
0 人	2 人	1 人	1 人
50 代	60 代	70 代	80 代以上
3 人	13 人	48 人	38 人

60 代以上のシニア層が 93%（70 代：45%、80 代 36%、60 代 12%）を占めている。

③助成金、補助金の情報をセンターが発信していることの認知

知っている：39 人 知らない：57 人 無記入：12 人

サークル関係での利用が多い当センターだが、36%が助成金等の市民活動情報の発信の認知があることがわかった。



イ)事業実施時にアンケートを実施

事業報告書に添付している。

3 意見等への主な対応状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

自由記述欄に「AED の設置を希望」と書かれた方が 3 名おられた。当センターでは今年度 2 月末から導入した。

また早く来た時に 10 時より早く入館したい。準備のために事前に入りたいと早めの入館・入室を希望される方がおられたが、時間通りであることを丁寧に説明していきたい。

(2) センター独自アンケート

年に 1 回、100 名以上の利用者を対象とした独自アンケートを聞いており、自分が参加している活動以外に要望しているサークルや市民活動について問合せたところ、社交ダンスや健康麻雀、音楽演奏会などの要望があった。

常時置いているご意見箱で、スタッフへの直接要望しにくいことや、気づかれた点、気になることなど様々な意見を集めているが、今年度投稿はなかった。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

1 取り組んだ事業等の総括の記載

「市民活動自立自走事業」だけでなく、すべての事業において参加者による自主運営や自立自走に向けての支援に取り組んでいる。また、サークル活動でもメンバー募集チラシのアドバイスや、活動先の紹介など活動の発展に尽力している。

「レコードを聴く会」では「レコードをかける会」の新規企画者の参加が、今までの市民企画者に良い刺激となり、さらに盛り上がりを見せている。市民企画者は、自身で広報をするスキルをつけてもらうためにチラシは自作してもらい、当日運営も一定のルールが確立し市民企画者自ら運営できるようになった。さらにポータブル機材を持って老人福祉施設等にでかける「おでか

けレコードを聴く会」の回数も増えたほか、自分で部屋を借りてレコードを聴く会を企画するメンバーも増えてきた。

また、ワールドミュージックを聴く会に、当センターの利用者をコーディネートして企画者と関わり、市民活動への積極的な関与を創出している。

自立自走に向けた支援は、個人やグループの状況に合わせてきめ細やかに行う必要がある。センターでは長期に渡る利用者や関係者とのコミュニケーションから臨機に対応ができ、自立自走支援の成果が現れている。

2 今後、解決すべき課題等

【貸館利用者増】

チラシやインターネットを活用し、市民に向け広く周知に努め、新規利用者を増やす努力を続けてきた。さらに自主練習への呼びかけなど細やかな声がけに努め、利用者増につなげていきたい。また近隣の施設等での利用者増への呼びかけを増やしていきたい。

3 次年度に向けた対応

次年度も、引き続き事業や支援の内容の充実を図り、さらなるグループの自立自走に取り組む。

施設運営に関しては新規に雇用したアルバイトスタッフ等も含め、全員のスキルアップを目指し、研修を充実させたい。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項はありませんでした。